

胸腺上皮性腫瘍について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 正岡病期分類Ⅰ期胸腺腫は術後再発率が1%程度である
- b 完全切除後の正岡病期分類Ⅱ,Ⅲ期の胸腺腫に対して術後放射線治療は予後を改善する
- c 胸腺腫は抗癌剤に対する感受性が低い
- d 心膜に浸潤する胸腺腫はTNM病期分類(第8版)でT3に分類される
- e 頸部リンパ節転移を認める胸腺癌はTNM分類でN2に分類される

## 解説

正岡病期分類と予後との関係、完全切除例に対する術後放射線療法に関しては十分に理解する必要がある。また、近年TNM分類も使用され、この分類に関する理解も必要である。

- a. 正岡病期分類Ⅰ期胸腺腫の術後再発率はⅠ期1%、Ⅱ期4%、Ⅲ期28%、Ⅳ期34%(日本の1990-1994年調査)となっている。(呼吸器外科テキスト p.357)
- b. 完全切除後の正岡病期分類Ⅱ,Ⅲ期の胸腺腫に対して、術後放射線治療に関しては議論の余地があるが、多くの臨床研究がその有用性を認めていない。(p.358)
- c. 胸腺腫は抗癌剤に対する感受性のある腫瘍であることが知られている。(p.358)
- d. 心膜に浸潤する胸腺腫はTNM病期分類(第8版)でT2に分類される。  
肺、腕頭静脈、上大静脈、胸壁、横隔神経への浸潤はT3、大動脈、主肺動脈、心筋、気管、食道への浸潤はT4に分類される。(p.360)
- e. 頸部リンパ節転移を認める胸腺癌はTNM分類でN2に分類される。Anterior(Perithymic)リンパ節はN1に分類される。(p.360)

参照：呼吸器外科テキスト p.357 - 360

解答 a, e

正解率 27.93%

70歳の女性。低血糖発作を繰り返し来院した。画像および病理所見を示す。正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 化学療法によく反応する
- b 胸膜肺全摘術の適応である
- c 外科切除後の局所再発率が高い
- d 約10～20%に肥大性肺性骨関節症を認める
- e 中皮下の間葉組織由来である

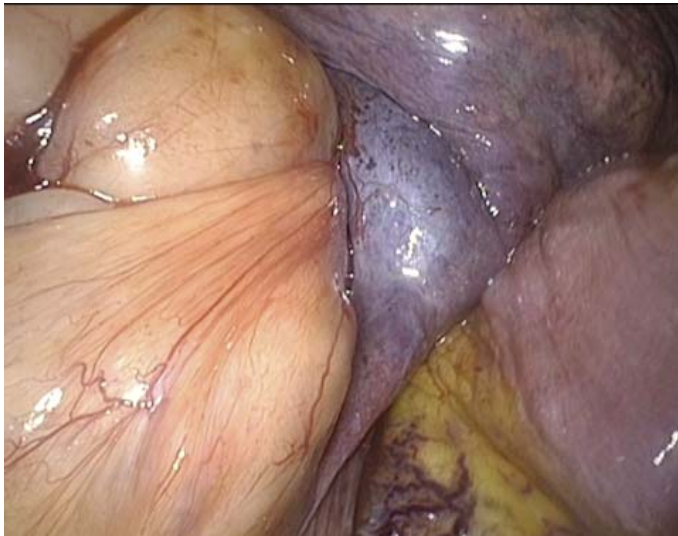
胸部エックス線写真



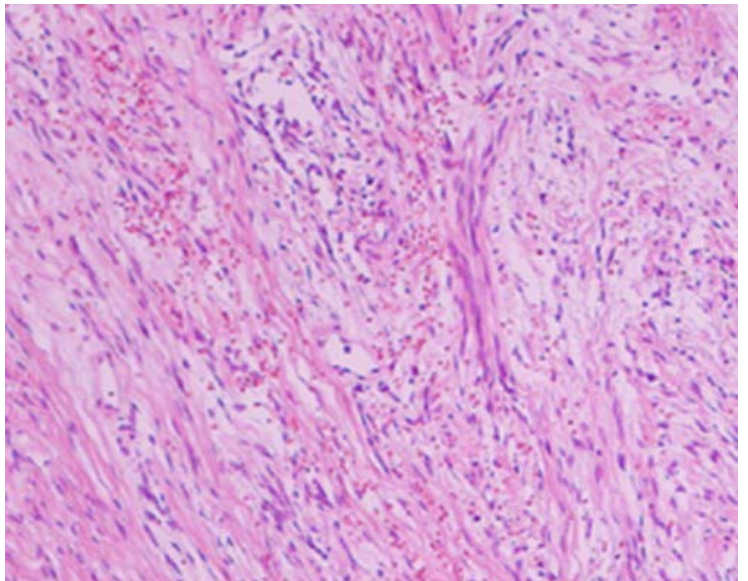
胸部造影CT



術中写真



病理所見



## 解説

インスリン様成長因子 II (IGF-2) を分泌する孤立性線維性腫瘍を問う問題である。

孤立性線維性腫瘍は、中皮下の間葉組織由来の腫瘍である。本症例は、胸部エックス線写真では右横隔膜上、胸部造影 CT で背側に内部に造影効果のある腫瘍を認める。通常は胸部エックス線写真で境界明瞭で腫瘍内石灰化を呈する。

アスベストとの関連は明らかでない。

約半数は無症状で発見される、他に、咳、胸痛、呼吸困難、バチ状指、肥大性肺性骨関節症、発熱を訴える。5%以下ではあるが、IGF-2 を産生し、低血糖症状を呈する。

治療は完全な腫瘍摘除で、完全切除後の予後は一般に良好である。まれに局所再発を繰り返す。また、遠隔転移もある。

病理では、肉眼的に有茎性のものが多い。2/3 が臓側胸膜より発生し、残りが壁側胸膜発生である。顕微鏡的所見では、紡錘形細胞からなり、免疫組織化学的染色で CD34 陽性が特徴である。

参照：呼吸器外科テキスト p.415

新呼吸器専門医テキスト p.521

解答 d, e

正解率 27.03%

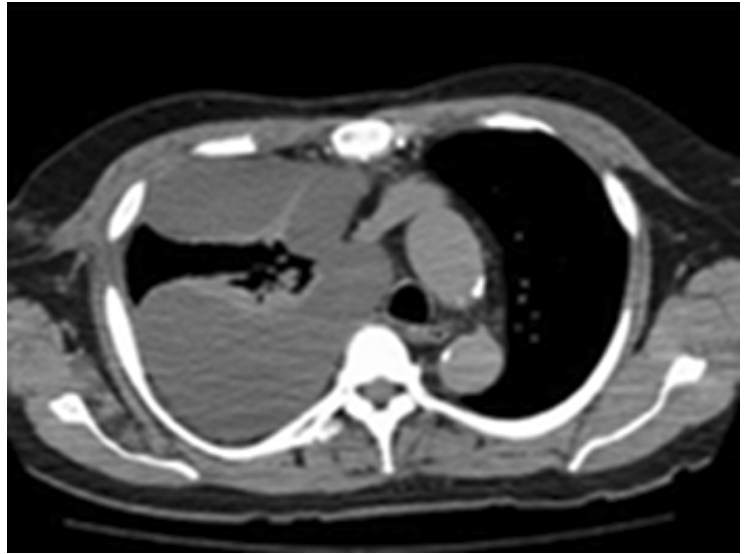
60 歳の男性. 1 ヶ月前に中縦隔腫瘍摘出術を施行していた. 3 日前から労作時呼吸困難を自覚し, 来院した. 来院時の胸部エックス線写真および胸部 CT を示す. この疾患について正しいのはどれか. 2 つ選べ.

- a 保存的治療が第一選択である
- b 末梢血ではリンパ球増多症を認める
- c 穿刺液を遠沈すると上澄は透明となる
- d 再手術では術前ミルク摂取は有用である
- e 血中トリグリセリド量は重要である

胸部エックス線写真



胸部 CT



## 解説

術後乳び胸に関する問題である。

乳び胸の原因は様々である。呼吸器外科では肺癌術後の発生が多い。発生の背景因子として肺葉切除、右側の手術、ロボット手術、病理学的 N2 症例に多い。

通常、乳びは乳び槽から胸管を通過して左静脈角（左内頸静脈と左鎖骨下静脈の合流部）へ約 2.4L/ 日運搬される。胸管は太いリンパ管で乳び槽から発し横隔膜の大動脈裂孔から胸腔に入る。胸腔下部では胸椎の右側で食道の背側を下行大動脈と奇静脈に挟まれ走行し、第 4～6 胸椎、気管分岐部のレベルで左側を走行し頸部に至る。

摂取した脂肪は消化され、その中の長鎖脂肪酸はカイロミクロンの形で小腸のリンパ管へ入り乳び槽へ運搬される。乳びにはカイロミクロン以外にリンパ球、3g/dL 以上の蛋白、電解質、脂溶性ビタミンが含まれる。

脂肪制限食は乳びの発生を減少させる。中鎖脂肪酸はカイロミクロンを作らず遊離脂肪酸のまま門脈に入る。

末梢血ではリンパ球減少症を認める。

穿刺液では、膿胸は遠沈すると上澄は透明となり、乳び胸、偽乳び胸は遠沈しても白濁のままである。乳び胸の診断には、胸水中のトリグリセライド量が 110mg/dL 以上が必要条件である。

治療はまず保存的治療が試みられる。

参照：呼吸器外科テキスト p.404-407

解答 a, d

正解率 46.85%

正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 医療事故調査制度の対象は医療に起因した予期せぬ患者傷害事例である
- b 利益相反とはある行為によって一方の利益になると同時に他方への不利益になる行為である
- c エラーが発生した場合に当事者の責任追及を厳格に行って事態を収める
- d 医師は患者の最善の経済的利益のために行動すべきである
- e 病院開催の倫理委員会の主たる任務は科学的妥当性と患者擁護の審査である

## 解説

呼吸器外科医としての医療安全の制度や考え方、倫理的な問題などの常識的な知識を問う問題である。医療事故調査制度の対象は医療に起因した予期せぬ死亡事例であり、明らかな医療過誤があったとしても患者が死亡していない場合は医療事故調査制度の対象外である。

利益相反とは定義は選択肢通りである行為が一方の利益となると同時に他方への不利益となる行為である。しかし臨床現場で問題となるのは特定の製薬会社や手術機器会社の宣伝で医師としての判断や行動に影響が出る状態について批判的に述べられる。また研究においても同様である。

エラー（失敗）が発生した場合、個人の責任追及ではなく背景因子を含めたシステムの問題を考えるというのが安全管理上の基本的な考え方である。

医療倫理的にもプロフェッショナリズムの問題としても、医師は患者の最善の利益のために行動すべきであり、経済的な問題に限定すべきではない。医療費が安く済むという理由で、患者の生命予後やQOLにメリットのある治療を思いとどまるべきではなくバランスを考慮した治療方針を考えるべきである。

倫理委員会の任務は倫理的審査ということになるが、その内容は医学的な意味での科学的妥当性と患者権利の擁護が中心となる。

参照：呼吸器外科テキスト p.13

解答 b, e

正解率 20.72%